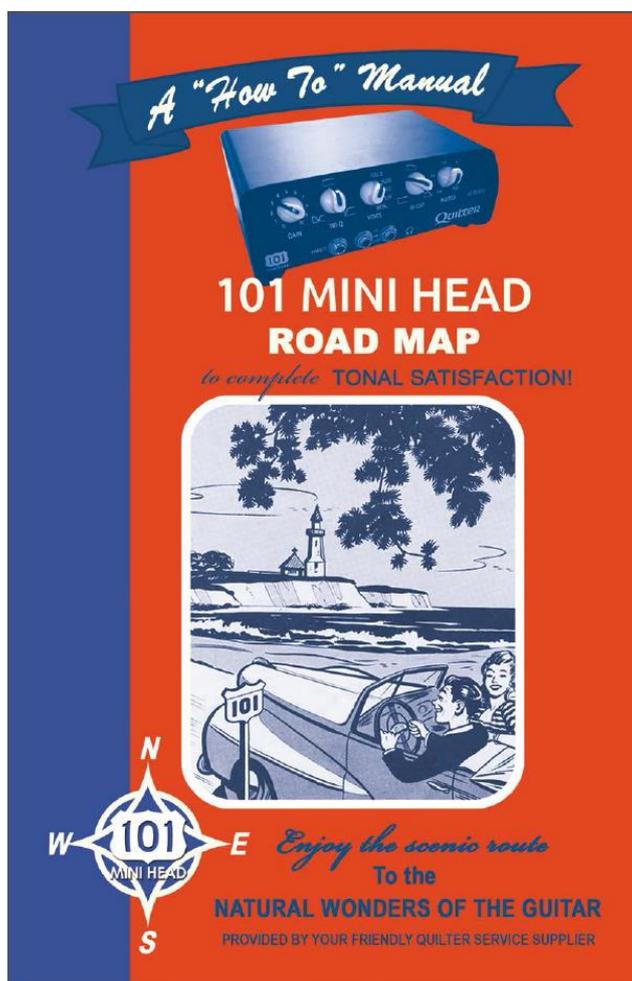


THE QUILTER 101 Mini Head

取扱説明書 Ver1.0



株式会社 サウンドハウス
〒286-0825 千葉県成田市新泉14-3
TEL: 0476(89)1111 FAX: 0476(89)2222
<http://www.soundhouse.co.jp> shop@soundhouse.co.jp

目次

安全上の注意.....	3
EMC/EMI 準拠.....	3
はじめに.....	4
製品仕様.....	4
開梱.....	5
各部の名称.....	6
フロントパネル.....	6
リアパネル.....	10
電源コネクタ.....	10
スピーカー接続端子.....	10
メンテナンス.....	11

安全上の注意



このラベルがある部分には手を触れないでください。感電の恐れがあります。



このラベルがある部分の操作、メンテナンスを行う場合は関連するマニュアルをお読みください。

1. 感電防止のため、カバーを開けないでください。
2. 本製品に液体がかからないよう、また雨中や湿度の高い場所で使用しないでください。
3. 通気口の前に設置しないでください。
4. ヒーター、ストーブなど、高温になる物の近くに設置しないでください。
5. アースピンをカットするなど、電源プラグを改造して接続しないでください。
6. 電源ケーブルは、踏まれたり挟まれたりするところのない場所に設置してください。
7. 付属品やアクセサリはメーカーから提供される物をお使いください。
8. 落雷の危険性がある場合や、長期間使用しない場合は、電源ケーブルをコンセントから抜いてください。
9. 本製品を廃棄する場合は、その市町村のルールに従ってください。
10. 通気性の良い場所に設置してください。
11. 本体を拭くときは乾いた布を使用してください。

EMC/EMI 準拠

注意：この製品は FCC 規則第 15 部に準拠しており、Class B digital device に認定されています。

本製品を使用すると高周波を発信する場合があります。設置場所および使用方法によっては、無線送信に有害な干渉を引き起こす可能性があります。ラジオやテレビの受信に干渉する場合は、環境に応じて使用するかどうかの判断、または下記の改善策をご検討ください。

- 受信アンテナの方向や位置を変える
- 装置と受信機の距離を離す
- 受信機が接続されているものとは別系統のコンセントに機器を接続する
- 販売店、またはテレビ・ラジオの技術者に相談する

はじめに

この度は、QUILTER 101 Mini Head をご購入いただき、誠にありがとうございます。101 Mini Head は、ソリッドステート回路に最新のテクノロジーを採用し、チューブアンプが持つ温かみのあるダイナミックなサウンドを忠実に再現した小型アンプヘッドです。本製品の性能を最大限に発揮させ、末永くお使いいただくため、ご使用になる前にこの取扱説明書を必ずお読みください。

製品仕様

出力	0 - 100W 4 - 8Ω
電源	AC100V 50 - 60Hz
入力	モノラルフォン端子、2M 入力インピーダンス、 6V ピーク
エフェクト・センド	モノラルフォン端子、1V フルスケール、600Ω
エフェクト・リターン	モノラルフォン端子、1V フルスケール、47k
ヘッドホン出力	ステレオミニ端子、4V ピーク
スピーカー1 出力	8Ω、60 - 100W 定格
スピーカー2 出力	4Ω、60 - 100W 定格
デュアルスピーカー1+2	各 8Ω、30 - 50W 定格
寸法	216mm 幅×147mm 奥行き×80mm 高さ
重量	1.1kg

開梱

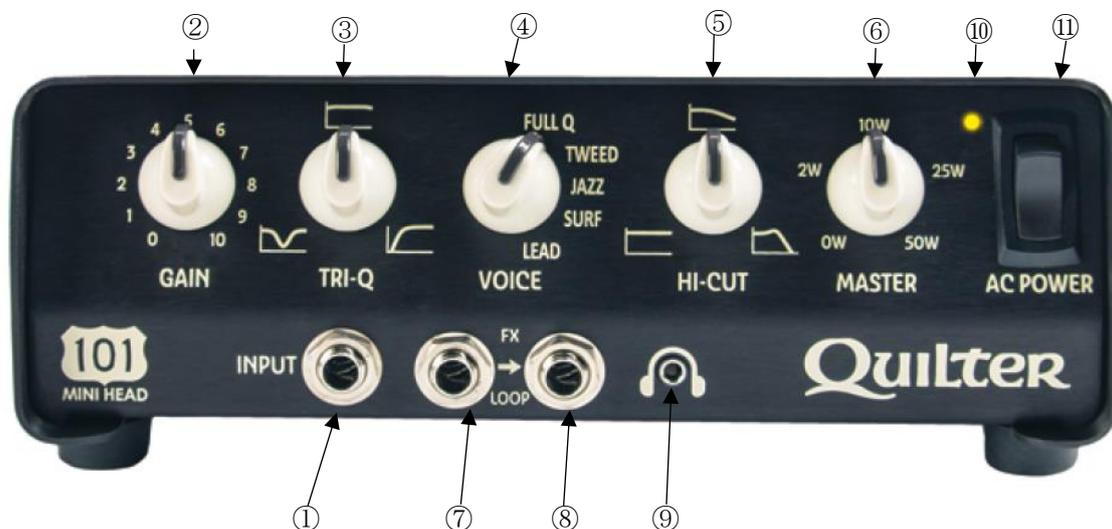
製品パッケージに次のアイテムが含まれていることをご確認ください。

1. QUILTER 101 Mini Head Amplifier 本体
2. 電源ケーブル
3. スピーカーケーブル
4. 取扱説明書（本書）

輸送時の破損がないことを確認してください。万一破損が確認された場合は、配送業者と発送元に連絡ください。

製品の外箱と梱包材は保管しておいてください。輸送時に破損が生じた場合の証明として必要となることがあります。

各部の名称



フロントパネル

1. **INPUT:** ハイ・インピーダンス入力端子です。ギターを接続します。
2. **GAIN:** オーバードライブ/サスティーンの調整を行います。
3. **TRI-Q:** 3種類のEQパターンを選択できます。EQパターンはパネルにプリントされています。これらを選択することにより、低域、中域、高域をブースト、またはカットすることができます。また、オーバードライブのかかり方も変わります。

 音の中域をカットし、低域、高域を際立たせます。これによりクリアな明るいサウンドを作りだし、歯切れの良いリズムとクリーンなサウンドを作ることができます。

 中域をフラットに保ちます。中域はしっかりと、豊かなゆったりとしたトーンを作ります。オーバードライブをかけやすくなります。

 中域と高域をブーストします。クラシックロックのリードギターサウンドを作ります。低域を抑えて低音を明瞭に保ちます。オーバードライブをかけても音の輪郭がぼやけにくくなります。

この3つのEQサウンドはコントロールノブをゆっくり回してスムーズにブレンドすることができます。さらに詳細に調整して好みのスイートスポットを見つけることができます。

4. **VOICE** : 5種類のトーンを選択できます。オーバードライブ・セクション前後に適用され、**TRI-Q** と **HI-CUT** との組み合わせにより様々なトーンを作ることができます。

FULL Q : トーンを加工しない、アンプのベースサウンドです。オーバードライブの歪みは **EL-84** や **EL-34** などのチューブを使用した英国ヴィンテージアンプに影響を受けています。

TWEED : オーバードライブの後に付加され、落ち着いた高音と速く鋭い低音が特徴。初期のオープンバックアンプのトーンに影響を受けています。

JAZZ : 入力 **GAIN** は抑えられ、クリッピング・スレッシュホールドは増加します。**EQ** を付加することなく、広いヘッドルームを作りだします。そのサウンドは昔のジャズギタリストが使用していたヴィンテージアンプを思い起こさせます。最大出力 **100W**、マスターボリュームを下げて、スピーカーを保護できます。

SURF : 60年代の **Fender blackface** のトーンを実現するため、中域をカットする **EQ** が付加されます。ピーク出力は **100W** まで上がります。クリーンで、ノイズが少ないサウンドです。マスターボリュームにより、どんな出力レベルであってもダイナミックなオーバードライブを再現できます。

LEAD : プリアンプをフル **GAIN** にして、オーバードライブを最大にかけることができます。抜けの良さと音の鋭さを最大にするために低域と高域をブーストし、中域をカット。実際のスピーカーに対する出力を上げることなく、美しい倍音を作り音楽性の高い迫力のあるトーンを作ります。

この5種類のトーンプリセットは **TRI-Q** と **HI-CUT** を組み合わせて、幅広い音域を通して音楽性の高いトーンとオーバードライブを作ることができます。出力回路は自然なサウンドを作るため全てアナログ回路を採用。様々な音楽スタイルに合わせ、その微妙な違いを表現することができます。

5. **HI-CUT** : パネルにプリントしてあるパターンのように、アンプの自然なフルレンジレスポンス、高域をマイルドにカット、高域の周波数ピークを鋭くカットする 3 種類のモードがあります。

 クリアーなサウンドとオーバードライブを作ります。落ち着いたトーンを出力する平均的なギタースピーカーとの相性が良いモードです。

 ヘッドフォン、フルレンジスピーカー、ダイレクトレコーディング用モニターなどのフルレンジサウンドは高域が強調されすぎる傾向があります。このモードで **HI-CUT** を使用すると、高域のエッジを取ることができます。通常のスピーカーを使用するときでも、多くのギタリストは高域の広い範囲に **HI-CUT** をかけたサウンドを好みます。

 高域のみ **HI-CUT** をかけると、トーンに丸みを与え、ボーカルの音質に似たマイルドなピークを加えます。このトーンはブルースや、リードギターにぴったりです。高周波側にスイープすると周波数ピークが連続的にダウンしていくのが分かります。**HI-CUT** レンジをフルにすると、まるでフルートのような音になります。

6. **MASTER** : アンプ内のコントロールで作った音質を変えずに、全体の音量を調整します。同じ様な出力を持つチューブアンプと比較するため、分かりやすいようにチューブアンプに合わせた相対出力 **0 - 50W** がパネルにプリントされています。出力単位は非常に精度の高い **Full Q Voice** 設定を使用しています。ボイス設定が特定の周波数で出力を増減するため、**MASTER** の表示 (**0 - 50W**) は実際の出力と合わず、一種のガイダンス的な役割として捕らえてください。

Quilter の使命は、チューブを必要ギターアンプを開発することです。高級ヴィンテージアンプと同じ豊かで温かみあるサウンドと、鋭くコントロール可能なオーバードライブを実現します。どんな **Master** ボリューム設定のときでも、高級ブティックアンプと同じオーバードライブ感覚とレスポンスを体感できるはずですが、しかしながら、フィードバックとサスティーンは、アンプ出力がギターボディと共鳴するのに十分なボリュームに達するかどうかによって依存します。美しいフィードバックとサスティーンを得るには **MASTER** ボリュームを高く設定し、最適なスピーカーを鳴らす必要があります。そしてこの迫力あるトーンは、ミュージシャンに直接インパクトを与えます。このインパクトはロックミュージックを体感する重要な要素の 1 つになっています。オーバードライブは小さめの音量のとき弱くなる傾向がありますが、**QUILTER** アンプでは、ギターのピッキングに対して同じ

ダイナミックなレスポンスを得ることができます。

7. **FX LOOP** : いろいろなペダルを組み合わせることでサウンドを作ることは、ギター演奏の面白さの1つでもあります。101 ミニヘッドはそれぞれのペダルの特性をうまく引き出せるように設計されています。

外部エフェクトに対しては1Vの信号を送ります。コーラス、ディレイ、リバーブなどのペダルをここに繋いで最適なサウンドを作ることができます。これらのエフェクトは、オーバードライブを含むアンプ全体のサウンドにそのまま重ねることができます。

8. エフェクターチェーンの最終的な信号は右側の端子(8)に戻ってきます。この端子にエフェクター・ケーブルを繋ぐと、内部のスルー接続が切れて、エフェクターを通した信号がアンプに入力されます。

歪みやオーバードライブペダルはギターとアンプ入力の間に入れて使用してください。それにより、色づけされたサウンドはアンプから出力します。エフェクトペダルもアンプ入力の間に入れます。しかしながらそのサウンドはオーバードライブを強くかけると強さに応じて埋もれてしまうこともあります。

9. ヘッドホン端子 : ヘッドホンを接続してモニターします。音量が大きいため、**Master** ボリュームは半分くらいにして聴くようにしてください。フルレンジヘッドホンは標準のギタースピーカーより高音が強調されてしまうため、**Hi-Cut** コントロールを使用して聴きやすい音に調整してください。

ヘッドホン端子にヘッドホンを接続してもスピーカーはミュートされません。

10. 電源ランプ : アンプの電源がオンのとき点灯します。
11. 電源スイッチ : アンプの電源を入れます。

リアパネル

電源コネクター



付属の電源ケーブルを接続します。感電を防止するため、アース線は必ずアース端子に接続してください。

スピーカー接続端子



8Ω または 16Ω スピーカーを下段 8-OHMS 端子に接続します。4Ω スピーカーは上段 4-OHMS 端子に接続してください。

8Ω スピーカーを 2 台、または異なるインピーダンスのスピーカーを 1 台ずつ接続する場合、2 つの端子にそれぞれスピーカーを接続してください。パワーは 2 台のスピーカーに分割されます。本アンプでは、インピーダンスミスマッチにより音質が変わることはありません。

注意：本アンプに許容入力が 15 - 30W 程度と低いヴィンテージスピーカーなどを接続する場合、安全に使用するために、MASTER ボリュームを十分絞ってから徐々に上げるようにしてください。

メンテナンス

症状	原因と対策
電源が入らない	電源ケーブルがしっかりとコンセントに接続されているか チェックする
アンプの電源が落ちて直ぐに立ち上がる。	アンプが過熱しサーマルプロテクションが働いた可能性がある MASTER ボリュームを 30%まで下げる 直射日光を避けて設置する 壁や他の機材と十分な距離を置いて設置する
音が出ない	MASTER ボリュームと GAIN がゼロになっていない ことを確認する ギターケーブルがアンプとギター両端にしっかりと接続 されているか確認する ギターケーブルを交換してみる スピーカーケーブルがスピーカー端子にしっかりと接続 されているか確認する
音が低い、または変動する	ペダルとアンプと切り分けるため、FX Loop に接続した ペダルを取り外し、ギターを直接アンプに接続する ペダルの接続、電源、バッテリーをチェックする
バックグラウンド・ハムノイズが出る	ギターケーブルがしっかりと接続されているかチェックする ギターケーブルを交換する。シールドケーブルを使用する アンプ、ペダルは同じコンセントに接続する ギターのボリュームをゼロにするとハムノイズが消える 場合、シングルコイルピックアップは特に調光式ライト、 ネオンライトなどのハムノイズを拾いやすい 「フェーズスイッチ」ピックアップ・セレクターがある場合、 それを試してみる ギター・シールドをチェックする 弱いブーンという音がでる場合、アースが接続されて いない可能性がある。必ずアースを接続する
過度のノイズ	GAIN の上げ過ぎ。 ケーブル、ギター、ペダルなどの接続をチェックする 繰り返し発生するノイズはスマートフォンから出ている

	可能性がある。スマートフォンをアンプやギターから遠ざける
アンプの音がどの音量でも歪む。	ヘッドホンで聴いたときに問題なければスピーカーの可能性もある MASTER ボリュームを下げる エフェクトループに接続されている機材を外してギターを直接アンプに接続する
クリーントーンが欲しいのに過剰なオーバードライブが出る	GAIN を下げて MASTER を上げる JAZZ や SURF ボイスを試してみる

次の事象が発生した場合はコンセントから電源ケーブルを抜いて直ちに販売代理店にご相談ください。

- アンプ、または電源ケーブルから煙りが出た
- アンプを誤って落としてしまった
- アンプに液体をこぼしてしまった
- アンプ内部の部品が外れたような音がする